



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

9月号—No.340

2023.8.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【若菜色(わかないろ)】初春に採る若菜のような明るい黄緑色。

俳句で「若菜摘む」といえば新年の季語。旧暦1月7日に春を告げる若菜の芽を摘んで入れた「七草がゆ」を食べる風習からこの季語が生まれた。七草の種類には諸説あるが、今は「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ」とされている。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

「地域創造フェスティバル2023」報告

財団からのお知らせ..... 4

「公立美術館共同巡回展企画支援事業」実施館が巡回展参加館を募集／全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」募集開始／(一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」募集開始

今月の情報..... 5

地域通信 / 特集 アートプロジェクト・芸術祭

調査研究事業報告..... 10

「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果に関する調査研究」の成果から～学校向けアウトリーチの実態

今月のレポート..... 12

山形県東根市 まなびあテラス「黒須和清 切り起こしペーパークラフト展」
「黒木あるじとひがしね百物語」

総勢58組のアーティストがプレゼンテーションを披露

地域創造フェスティバル2023 報告

2023年7月24日～26日



写真左上: シンポジウム「アウトリーチの今とこれから～地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果～」

右上: おんかつ支援プレゼンテーション
神谷未穂さん(ヴァイオリン)

左下: おんかつ支援プレゼンテーション
岩崎海奈さん(ピアノ)

右下: ダン活プレゼンテーション
井田亜彩実さん

●地域創造フェスティバル

公共ホールや自治体が事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的に、年1回地域創造の事業を紹介するフェスティバル。公共ホール音楽活性化支援事業の登録アーティスト、公共ホール現代ダンス活性化事業の登録アーティストによる多彩な実演(プレゼンテーション)、シンポジウム、セミナーなどを実施するとともに、財団事業の説明会を開催。アーティストや全国のホール関係者、専門家が一堂に集い、交流する貴重なプラットフォームとなっている。会期中に都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催。

多くのアーティストと公共ホール職員の交流の場となっている地域創造フェスティバル。昨年度はアクリル板越しの演奏や距離をとった情報交換会など不自由さを残していましたが、今回は通常の交流が復活し、7月24日から26日まで東京芸術劇場を会場に開催されました。おんかつ支援登録アーティスト52組によるプレゼンテーションに加え、シンポジウム、ダン活プレゼンテーション、都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議、おんかつ・邦楽セミナーを開催。活気に溢れたフェスティバルとなりました。

●シンポジウム「アウトリーチの今とこれから」

地域創造では、1998年から「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」に取り組み、演奏家が学校などに出向くアウトリーチ事業を推進してきました。それから25年、今では全国の公共ホールで事業が実施されるようになっていきます。それを踏まえ、昨年度から2カ年計画でその成果や効果を検証する調査研究をスタートし、第1弾として「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果に関する調査研究」報告書(詳細は今号のP10・11参照)を取りまとめました。

この調査では継続的にアウトリーチ等に取り組む6館にご協力いただき、受け入れ先の教員、参加した児童へのアンケートやインタビューを実施しました。シンポジウムでは、報告書の内容をご紹介するとともに、調査協力館の北上市文化交流センターさくらホール(千葉真弓さん)、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館(坂内佳子さん)、北九州芸術劇場(吉松寛子さん)および演出家・俳優の有門正太郎さんによるパネルディスカッションが行われました。

2006年度のおんかつに参加したことを契機にアウトリーチを始めたという千葉さんは、「当初はホールのお客さんとして戻って来てもらう創客が目的だったが、今ではアウトリーチが社会包摂を実現する手段になっている。北上市では2022年に文化芸術推進基本計画を策定し、その重点項目のひとつにアウトリーチを位置付けた。14年には地元の演奏家を育成し、アウトリーチを行う『いわての演奏家とつくる音楽会』を奥州市前沢ふれあいセンターと連携してスタート。また、釜石市民ホールと大船渡市民文化会館を加えた4館で、おんかつ支援アーティストに地元の演奏家も加えたコンサートやアウトリーチを行う『Music Program IWATE』プロジェクトを立ち上げた」と言い、地元の演

奏家の参加や近隣ホールとの連携の可能性について紹介していました。

このほか、りゅーとぴあが2019年から行っている劇場専属舞踊団Noism Company Niigataによる視覚障害者向けワークショップ、北九州芸術劇場が有門さんらアーティストを派遣して北九州市子ども・若者応援センター「YELL」(15歳から30歳の若者を対象にした復学・就労支援等)で行っているワークショップなど、刺激的な事例紹介が続きました。

●おんかつ支援とダン活のアーティスト計58組が実演

52組が出演したおんかつ支援では、客席に近づいた演奏やホール職員が参加するアクティビティなど、プレゼンテーションでの距離感の近い自由な交流が復活し、ふれあいを満喫していました。今回から邦楽活性化事業出身の支援アーティスト3名(川田健太さん、藤重奈那子さん、棚原健太さん)も参加し、ベテランの片岡りささん、Dual KOTO×KOTOと共に邦楽の魅力伝えていました。

久しぶりにプレゼンテーションに参加した神谷美穂さん(ヴァイオリン)は、定番の楽器紹介から楽曲演奏まで見事な流れで紹介。最後はヴァイオリンの多彩な音色の魅力が詰まった『死の舞踏』の圧倒的な演奏で締めくくり、3つのオーケストラのコンマスを務める実力で魅了していました。また、おんかつでの出会いがきっかけとなり、音のボリュームが全く異なるクラシック・ギターとトロンボーンでコンサートを行っているという松尾俊介さんと加藤直明さん、チューバの音の振動をアルミ皿に載せたたくさんの小豆がジャンプする様子で可視化して伝えた喜名雅さん、『ピーターと狼』の登場人物を絵で紹介しながら演奏した佐々木京子さん(ピアニスト)、マリンバは新しい楽器なので現代音楽と親和性があるという宮本妥子さんは中川賢一さん(ピアニスト)と共に1966年生まれ作曲家ジョン・ササスの『マトルズ・ダンス』で鬼気迫る演奏を披露するなど、自由に演奏できる喜びを身体いっぱいに表現したパ

フォーマンスが続きました。

ダン活プレゼンテーションでは、令和6年度ダン活実施団体の研修を兼ねて、登録アーティストによるダンスワークショップのデモンストラーションとパフォーマンスが行われました。藤田善宏さん、長与江里奈さん、中村蓉さんは、これまでのダン活経験も踏まえてそれぞれの強みを心得たトーク&プレゼンテーションでコンテンポラリーダンスの幅広い可能性を伝えていました。また、来年度登録2年目となる井田亜彩実さん、大島匡史朗さん、浅井信好さんもそれぞれの創作ルーツを生かしたプレゼンテーションで作品の世界観や現在の興味関心などをアピール。アーティストごとに異なる、ワークショップや市民との作品創作で大切にしていることやそれぞれの身体表現の魅力が伝わる充実したプレゼンテーションとなりました。

地域創造フェスティバル2023 プログラム

1日目(7月24日)

●おんかつ支援プレゼンテーション(シンフォニースペース ギャラリー2)

【ピアノ】新居由佳梨、新崎誠実、岩崎洵奈 【弦楽器】神谷未穂、北島佳奈(ヴァイオリン) 【管楽器】荒川洋、吉岡次郎(フルート)/高見信行(トランペット)/加藤直明(トロンボーン)/喜名雅(チューバ) 【声楽】竹多倫子(ソプラノ)/糸賀修平(テノール) 【打楽器】野尻小矢佳(パーカッション&ボイス) 【その他】松尾俊介(クラシック・ギター)/川田健太(箏・三味線・唄) 【アンサンブル】デュエットウカなえ&ゆかり(ピアノデュオ)/Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)

2日目(7月25日)

●シンポジウム「アウトリーチの今とこれから～地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果～」(令和4年度調査研究事業報告)(シアターウエスト)

吉本光宏、大澤寅雄、千葉真弓、坂内佳子、吉松寛子、有門正太郎

●おんかつ支援プレゼンテーション(シンフォニースペース ギャラリー2)

【ピアノ】酒井有彩 【弦楽器】甲斐摩耶(ヴァイオリン)/海野幹雄、加藤文枝(チェロ) 【管楽器】森岡有裕子(フルート)/大石将紀(サクソフォン) 【声楽】梅津碧(ソプラノ) 【打楽器】大熊理津子、塚越慎子(マリンバ)/新野将之(パーカッション) 【その他】片岡りさ(箏)/福島青衣子(ハープ)/小林史真(ハーモニカ)/山本奈央(オカリナ) 【アンサンブル】泉真由×松田弦(フルート&クラシック・ギター)/Quatuor B(サクソフォン四重奏)/Buzz Five(金管五重奏)/BLACK BOTTOM BRASS BAND(ブラスバンド)

●ダン活プレゼンテーション(シアターイースト)

藤田善宏、井田亜彩実、長与江里奈、大島匡史朗、中村蓉、浅井信好

3日目(7月26日)

●おんかつ・邦楽セミナー(リハーサルルームL)

[ファシリテーター]おんかつ、邦楽事業コーディネーター

【導入編】「アクティビティやコンサート企画～その目的や意味」(桜井しおり)、「邦楽活性化事業におけるアウトリーチ」(米澤浩)、「伝統楽器を用いた事業を考える」(伊藤由貴子)

【応用編】「地元アーティストの活用、育成～継続的な事業展開を目指して」(赤木舞)、「アウトリーチと事業計画の関係を考える」(菊地俊孝)、「地域に合った事業の企画方法～地域資源の活用、地域課題と向き合う」(多田淳之介)

●助成・事業説明会(シアターウエスト)

●おんかつ支援プレゼンテーション(シンフォニースペース ギャラリー2)

【ピアノ】金子三勇士、今野尚美、齊藤一也、佐々木京子、中野翔太 【弦楽器】石上真由子、高橋和歌(ヴァイオリン)/奥田なな子(チェロ) 【管楽器】田中拓也、田村真寛(サクソフォン) 【声楽】乗松恵美(ソプラノ)、ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン) 【打楽器】宮本妥子(打楽器・マリンバ) 【その他】藤重奈那子(箏・地歌三味線)/棚原健太(歌三線) 【アンサンブル】アーバンサクソフォンカルテット、Quartet SPIRITUS(サクソフォン四重奏)

*都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催(7月25日 13:30～15:30/シアターウエスト)

*各日、来場者が交流する「情報交換会」を開催(18:50～19:50/シアターウエスト)

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●「公立美術館共同巡回展企画支援事業」実施館が巡回展参加館を募集

本年度の「公立美術館共同巡回展企画支援事業」として、湯前まんが美術館(熊本県湯前町)と横山隆一記念まんが館(高知県高知市)が、「『漫画集団』ってなんだ? (仮称)」展の企画検討作業を行っています。現在両館は、令和6年度準備・7年度開催の「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2カ年プログラム)」への申請に向けて、参加館を募集しています。以下の巡回展実施にご興味のある館は、担当学芸員へ直接お問い合わせください。なお、申請準備が必要です。9月23日(水)までにご連絡をお願いします。

湯前まんが美術館 Tel. 0966-43-2050
担当: 中尾章太郎

◎「漫画集団」ってなんだ? (仮称) 展

「漫画集団」とは、1932(昭和7)年、当時の若手漫画家たちが互いに仕事を斡旋しあう目的で結成された「新漫画派集団」をその前身とする職能集団です。後の「日本漫画家協会」

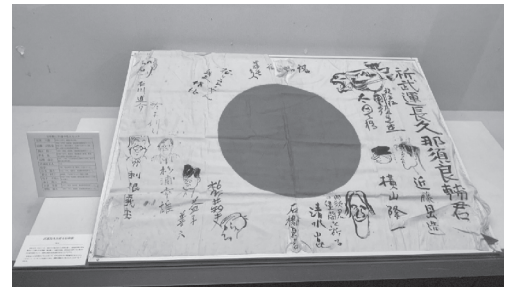
●全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」の募集開始

全国の市区町村長・副市区町村長および部長級職員を対象に、全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催により「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」を実施します。この事業は、自治体の長または幹部職員が知っておくべき地域づくりにおける文化・芸術の役割等を学んでいただくことを目的としているもので

●(一財)自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」の募集開始

(一財)自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業であるコミュニティ助成事業の一環として、公立文化施設の利活用の推進や企画制作能力の向上等を図るため、市(区)町村(政令指定都市を除く。)に対する「地域の芸術環境づくり助成事業」を実施しています。

の先駆けとなった団体であり、当時の漫画の主流だった「一コマ漫画」「風刺漫画」「大人漫画」などと呼ばれる作風の漫画家が多く在籍していました。今や国民的な文化となったストーリーマンガの礎は、漫画集団のメンバーが新聞や雑誌、テレビなどで活躍し、漫画の表現ジャンルとしての地位を押し上げたことによって築かれたともいえます。こうした漫画集団所属漫画家や、彼らと深い繋がりがあった明治～昭和期の漫画家の記念館同士が連携し、各館の貴重な館蔵品を一挙に公開する「漫画集団ってなんだ?」展を企画します。日本の漫画のルーツを探る共同巡回展です。



「漫画集団」(新漫画派集団)のメンバーが、漫画家・那須良輔に贈った出征旗(湯前まんが美術館所蔵)

す。セミナーは2日間にわたって行われ、1日目に、有限会社イデア 代表取締役 大月ヒロ子さんによる講演「廃材・端材が教えてくれる地域の文化・歴史・魅力」を予定しています。また、地域での活動経験が豊富なおんかつ支援登録アーティスト・片岡りささん(箏)によるミニコンサートを行い、模擬アウトリーチを体験していただきます。

研修の詳細および参加方法は、JIAMホームページ(左欄参照)をご確認ください。

このたび令和6(2024)年度事業の募集が開始されましたのでお知らせします。締切は各都道府県の文化担当課へお問い合わせください。

[問い合わせ] 一般財団法人自治総合センター

担当: 本藤 Tel. 03-3504-0841

※事業の詳細につきましては、(一財)自治総合センターの

ウェブサイトをご覧ください。 <https://www.jichi-sogo.jp/>

※都道府県から(一財)自治総合センターへの締切は11月30日(木)必着。

●公立美術館共同巡回展企画支援事業に関する問い合わせ
総務部 三田
Tel. 03-5573-4184

●全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」
[研修日程]2023年11月1日(水)、2日(木)
[会場]全国市町村国際文化研修所(JIAM)
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎2-13-1
<https://www.jiam.jp>
[申込締切]9月20日(水)
[主催・問い合わせ]
(公財)全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM)教務部
Tel. 077-578-5932

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

● 地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

● データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

● 地域ブロック
[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

● 情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 林・管藤

● 2023年11月号情報締切
9月22日(金)

● 2023年11月号掲載対象情報
2023年11月～24年2月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

● 北海道函館市

北海道立函館美術館
〒040-0001 函館市五稜郭町37-6
Tel. 0138-56-6311 関口千代絵
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/hbj/exhibition/program/163>

ことばと絵 くりかえしのアート

「くりかえし」をキーワードに、特定のモチーフを繰り返し描いたり、書いたりすることで創造されたアートの世界に注目した展覧会。「イメージ」「好きな気持ち」「学び」「技法」「時間」の5つの「くりかえし」をテーマに作品を展示することで、さまざまな視点から作品の魅力に迫ることができる。「時間とくりかえし」では函館市在住の画家・輪島進一が鉛筆1本で描く、スクリブルによる大森浜の海岸のライブドローイングも体感できる。
[日程] 7月15日～9月24日
[会場] 北海道立函館美術館



ライブドローイング中の輪島進一

● 福島県北塩原村

諸橋近代美術館
〒969-2701 耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峯1093-23
Tel. 0241-37-1088 久納
<https://dali.jp/>

ミュージアム・ワークス — みんなの知らない美術館

サルバドール・ダリの作品やセザンヌ、シスレーなどの西洋近代絵画作品を、保存や修復という観点から紹介する所蔵作品展。「構造と材質」「展示と修復」「保存の歴史」の3章で展示を構成し、作品の「保存」と「公開」とい

う、一見相反する要素をどのように両立させているのか、知られざる美術館の役割に焦点を当てる。これまで展示機会が少なかったダリの版画作品《カサノヴァ》《シュルレアリスムの24のテーマ》なども一堂に展示。
[日程] 7月15日～11月12日
[会場] 諸橋近代美術館

関東

● 千葉市

千葉県立美術館
〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1
Tel. 043-242-8311 松田・神野
<http://www2.chiba-muse.or.jp/ART/>

千葉県誕生150周年記念事業 房総の海をめぐる光と影と アート展

千葉県誕生150周年を記念し、房総の豊かな自然を感じる2部構成のアート展を開催。第1部では現代日本のメディアアート界を代表するアーティスト・クワクポリョウタが「房総の海」をテーマに光と影によるインスタレーション作品を新規発表する。第2部では「描かれた房総」と題し、海を中心とした房総の豊かな自然を描く当館所蔵の名品を、モチーフとなった写真とともに展示。
[日程] 7月19日～9月18日
[会場] 千葉県立美術館

● 東京都板橋区

板橋区立美術館
〒175-0092 板橋区赤塚5-34-27
Tel. 03-3979-3251 植松
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>

館藏品展 狩野派以外学習帳 江戸にきらめいた民間の絵師たち

2020年に開催した江戸狩野派に注目した館藏品展「狩野派学習帳」に続く、江戸絵画に焦点

を当てた展覧会。今回は、江戸絵画の正統を成した江戸狩野派とは別に、活況を呈した民間の絵師の作品を中心に紹介。古来より描き継がれる画題のうち、洋風画や泥絵などで描かれた「富士山」と、花鳥画の中で特に富貴の象徴として尊ばれた「牡丹」などの名品を展示する。英一蝶《一休和尚酔臥図》など修理後初公開となる3作品も展示。
[日程] 8月26日～10月1日
[会場] 板橋区立美術館

● 川崎市

川崎市民プラザ
〒213-0014 川崎市高津区新作1-19-1
Tel. 044-888-3131 企画担当
<https://www.kawasaki-shiminplaza.jp/>

第35回人形劇まつりin川崎市民プラザ

プロ7劇団・アマチュア21団体が参加する関東では最大級の人形劇フェスティバル。300円の入場バジッで、劇場や屋内広場など館内各所で上演されるバラエティに富んだ演目を一日中楽しめる。人気の「手作り人形コーナー」では、人形劇団ひとみ座のメンバーが本格的なウレタン人形のつくり方をレクチャー。
[日程] 9月24日
[会場] 川崎市民プラザ

● 神奈川県平塚市

平塚市美術館
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3
Tel. 0463-35-2111 安部沙耶香
<https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/index.html>

造形作家 玉田多紀 ダンボール物語

古紙ダンボールを使用し、生き物の造形美や性質をユニークにとらえた立体作品を制作している作家・玉田多紀の関東の公

立美術館では初となる大規模個展。活動初期から15年間で制作された生命力あふれるダンボールのいきものたち、近年力を入れている絶滅危惧種シリーズなど約130点を一堂に展示する。作家によるアーティストトークやワークショップなど関連イベントも盛り沢山。

[日程]6月24日～9月10日

[会場]平塚市美術館



「ダンボール物語」展示の様子
（「絶滅危惧種の物語」）

北陸・中部

●石川県七尾市

石川県能登島ガラス美術館
〒926-0211 七尾市能登島向
田町125-10

Tel. 0767-84-1175 小山ちえみ

<https://nanao-af.jp/glass/>

町田市立博物館所蔵 ガラス名品展

国内有数のガラス工芸コレクションを誇る町田市立博物館の協力により、同館所蔵品から、ボヘミアン・ガラスや中国清朝ガラス、近現代の日本ガラス工芸の3つのジャンルを代表する64点を展示。時代が作品に与えた影響や、色や形、モチーフに反映された西洋と東洋の美意識を紹介する。博物館学芸員によるギャラリートークや、美術館スタッフによるガラス工芸体験、観覧者による作品の人気投票など関連企画も開催。

[日程]6月24日～9月24日

[会場]石川県能登島ガラス美術館

●福井県福井市

ハーモニーホールふくい

〒918-8152 福井市今市町40-1-1

Tel. 0776-38-8280 山本和治

<https://www.hhf.jp/>

ハーモニーホールふくい オープンデイズ2023

ホール全館を使用して実施する芸術体験型プログラム。大ホールで演奏したり、さまざまな楽器に触れたりできるほか、福井の音楽愛好家やホール登録演奏家「越のルビーアーティスト」による演奏会も開催される。ほかにも、ホールスタッフによる施設内外の芸術作品の紹介や、地域文化の保存・伝承などに尽力する人・団体を顕彰した「野の花文化賞」受賞者の活動を紹介するなど、アートの・文化的要素も含まれる企画となっている。

[日程]9月20日～24日、30日

[会場]ハーモニーホールふくい

近畿

●三重県津市

三重県立美術館

〒514-0007 津市大谷町11

Tel. 059-227-2100 高曾由子

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/index.shtm>

日根野作三展

現在の三重県伊賀市に生まれ、陶磁器デザインの先駆者として知られる日根野作三(1907～84)。手づくりの風合いや遊びの余裕を重んじ、日常生活のための人間味あるデザインを提唱した日根野の生涯を、各地に残る陶磁器やデザイン画約180点から紹介する過去最大規模の回顧展。生前に関わりのあった窯や陶磁器研究所などの作品も展示し、知られざる三重の陶磁器の歴史も紹介する。

[日程]7月1日～9月24日

[会場]三重県立美術館

●京都市

京都府立堂本印象美術館



〒603-8355 京都市北区平野上柳町26-3

Tel. 075-463-0007 松尾敦子

<https://insho-domoto.com/>

大好き 印象の動物・鳥・昆虫

京都画壇の伝統的な写生の技を引き継ぎながら、花鳥画・動物画のほか風景画・歴史画・戦争画・工芸品など、枠にとらわれず多くの作品で生きものを表現した日本画家・堂本印象。本展では印象がどのように動物たちと向き合い、モチーフに取り入れて表現したのかを紹介。期間中は印象の作品を通して親子でふれ合えるクイズ形式の夏休みイベントやギャラリートーク、特別講演会も実施。

[日程]6月17日～11月23日

[会場]京都府立堂本印象美術館



堂本印象《兔春野に遊ぶ》(1938年/京都府立堂本印象美術館蔵)

●大阪府富田林市

すばるホール

〒584-0084 富田林市桜ヶ丘町2-8

Tel. 0721-25-0222 辻野文崇

<http://subaruhall.org/>

ベートーヴェン・ピアノフェスティバル

若手ピアニスト育成を目的として2010年からこれまでに59回開催してきたリサイタル・シリーズ「すばるイブニングコンサート」の歴代出演者11名とゲストの関本昌平が集結し、ベートーヴェンのピアノ作品を演奏する。1日目はピアノ・ソナタの名曲を、2日目は2台のピアノの演奏でピアノ協奏曲全曲を披露する。

[日程]9月3日、23日

[会場]すばるホール

●兵庫県宝塚市

宝塚市立文化芸術センター

〒665-0844 宝塚市武庫川町7-64

Tel. 0797-62-6800 大野・山口

<https://takarazuka-arts-center.jp/>

Made in Takarazuka vol.4

「入るかな?はみ出ちゃった。～宮本佳明 建築団地」

宝塚市を拠点に国内外で活躍する建築家・宮本佳明の展覧会。阪神・淡路大震災で全壊判定を受けた生家を修復した《「ゼンカイ」ハウス》(1997)など、宮本が設計してきた建築から代表的な作品を選び、それぞれの特徴的な一部分を原寸大の建築模型にして、壁や床の至るところからレリーフのように浮かび上がるという展示方法で紹介する。また、建築設計の初期段階で構想のためにつくられる「スタディ模型」も展示。模型が形を変えていく姿を見ることで、建築家の仕事を追体験できる。

[日程]9月16日～10月22日

[会場]宝塚市立文化芸術センター

●奈良県奈良市

奈良市杉岡華邨書道美術館

〒630-8337 奈良市脇戸町3番地

Tel. 0742-24-4111 松村清孝

<http://www3.kcn.ne.jp/~shodou/>

五鳳と華邨ー共に咲く師弟の歩みー

かな書の本分野で初の文化勲章受章者となった杉岡華邨生誕110年を記念した展覧会。華邨が師と仰ぎ、多大な影響を受け、共に現代かな書壇に大きな足跡を残した日比野五鳳(1901～85)の作品を併せて紹介し、五鳳と華邨の師弟の歩みを追う。五鳳の孫で書家の日比野博鳳を講師に迎え、五鳳のかな芸術やその制作論を中心にした書道文化講座も開催。

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

[日程] 5月27日～9月24日
[会場] 奈良市杉岡華邨書道美術館

中国・四国

● 鳥根県浜田市

浜田市世界こども美術館
〒697-0016 浜田市野原町
859-1
Tel. 0855-23-8451 高野訓子
<https://www.hamada-kodomo-art.com/>

森とあそびアート展

森をテーマに浜田市の自然をアートで表現した展覧会。廃材による実寸サイズの動物作品や木もれ陽の作品など、森の中にあるかのような雰囲気が楽しめる。浜田産の木材を使った作品ではクイズに答えながら作品を動かす仕組みにより、作品を体感しながら森の大切さを学ぶことができる。併せて開催される「きみのもり」(8月1日～31日)では、対照的にデジタルアートで表現された非日常的な森が体験できる。

[日程] 7月15日～9月24日
[会場] 浜田市世界こども美術館

● 岡山市

岡山芸術創造劇場
〒700-0822 岡山市北区表町
3-11-50
Tel. 086-201-8014 土井原千尋
<https://okayama-pat.jp/>

100人ダンス

9月1日にグランドオープンを迎える岡山芸術創造劇場が開館前から実施してきた市民参加型プロジェクト「劇場へ行こう!」、 「100人ダンスワークショップ」の集大成として、表町商店街北時計台から劇場までを練り歩くダンスパレードを開催。ダンサーの北村成美がパレード、北尾巨が盆ダンスの振付・演出を担当する。道中でのさまざまなコラボパフォーマンスや参加者とお

くった「born dance (盆ダンス)」を100人以上のダンサーが披露し、グランドオープンを祝う。

[日程] 9月3日
[会場] 表町商店街内、千日前スクエア

● 香川県高松市

高松市美術館
〒760-0027 高松市紺屋町10-4
Tel. 087-823-1711 石田智子
<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/index.html>

開館35周年記念特別展 「上田薫展」

なま玉子やゼリーなど身近なモチーフを超写実的に描き、子どもから大人までを魅了し続けている、上田薫の初期の作品から最新作までを紹介。本展に際してアトリエを調査する中で見つかった東京藝術大学在学時代のデッサン、作風を模索していた時代のスケッチなど未公開の作品や、高齢となった現在も描き続けている色鉛筆や鉛筆によるスケッチを含む約120点の作品を展示する。

[日程] 7月15日～9月18日
[会場] 高松市美術館



上田薫《なま玉子 J》(1978年/高松市美術館蔵)

九州・沖縄

● 佐賀県佐賀市

佐賀県立美術館
〒840-0041 佐賀市内1-15-23
Tel. 0952-24-3947 野中・岩永
<https://saga-museum.jp/museum/>

佐賀県立美術館40周年特別展 「あそび、たたかうアーティスト 池田龍雄」

伊万里市二里町に生まれ、戦後日本のアートシーンの第一線で活躍した池田龍雄(1928～2020)の回顧展を故郷佐賀で初めて開催。絵画やオブジェを中心に、紹介される機会の少なかった絵本の原画などを含め、初期から晩年までの多彩な作品約150件により、アーティストとして生きることを「たたかい」、アートを「あそび」と称した池田の創作の軌跡を振り返る。

[日程] 9月6日～10月29日
[会場] 佐賀県立美術館

● 大分県日田市

日田市民文化会館「パトリア日田」
〒877-0016 日田市三本松1-8-11
Tel. 0973-25-5000 石川今日子
<https://www.patria-hita.jp/>

日田市民ミュージカル 『アイになりたい』

2007年の開館以来、継続的に実施されている市民ミュージカル公演。今回は、日田市出身・在住などの日田にゆかりのあるスタッフメンバーがチームを組み、完全書き下ろしで新作を制作。市民への取材を重ね、日田のいま・みらいを映す作品となっている。また、キャストは小学1年生～70歳代までの幅広い年代の40人が出演し、今回、初の試みとしてダブルキャストでの上演に挑戦する。

[日程] 9月2日、3日
[会場] 日田市民文化会館「パトリア日田」

● 宮崎県延岡市

のべおか文化事業団
〒882-0813 延岡市東本小路
119-1
Tel. 0982-31-3337 飛山千香
<https://www.nobeoka-noguchi.com/>

ふるさと延岡エールコンサート

全国で活躍している延岡出身の若手アーティストによる凱旋コンサート。公演への出演を通じてふるさと延岡からも彼らへエールを贈る。黒木洋平(ピアノ)、花柳真珠李(日本舞踊)、岡田麗紗子(オーボエ)、小坂厚子(クラリネット)の4人が、ソロやアンサンブルなどで、それぞれの魅力を生かしたパフォーマンスをお届けする。

[日程] 9月24日
[会場] 野口遵記念館

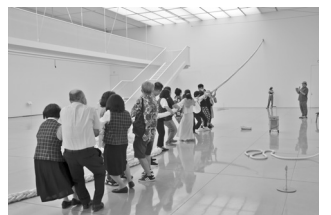
● 鹿児島県湧水町

鹿児島県文化振興財団
〒899-6201 始良郡湧水町水場
6340-220
Tel. 0995-74-5945 中森祐介
<https://open-air-museum.org/>

特別企画展 飯川雄大展「デコレータークラブ：未来のための 定規と縄」

世界中の海に生息し、周辺の環境に合わせて海藻や小石を身につけて姿を変える蟹(Decorator Crab)から着想したプロジェクト「デコレータークラブ」で知られる美術家・飯川雄大が、定規と縄をモチーフに新作を発表。霧島アートの森で初の試みとなる野外広場での展示では、長さ400mのインスタレーション(=定規)を設置。遊びにも思える鑑賞者の身体的行為を取り込み、展示室だけでなく野外広場へと繋がる大規模なインスタレーションを展開する。

[日程] 7月14日～9月10日
[会場] 鹿児島県霧島アートの森



会場風景 提供:鹿児島県霧島アートの森

特集 アートプロジェクト・ 芸術祭

全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクト、芸術祭等を紹介しします。

※開催地の北から順に掲載。

☎は会場、📍は問い合わせ先です。

(➡は地域創造助成事業)

●北海道白老町

9月9日～17日

飛生芸術祭2023

2009年から続く、旧飛生小学校の木造校舎と周辺の森を会場とした芸術祭。森への影響を考慮し、今年はオープニングイベントである「トビウの森と村祭り」はお休みし、2011年から活動を続けてきた「森づくり」の経過に焦点を当てて開催する。普段の森づくりの雰囲気味わえるワークショップも実施し、飛生ならではの体験ができる。

☎飛生アートコミュニティー

📍飛生芸術祭実行委員会

hm@racka-sapporo.com

●青森県・岩手県三陸沿岸地域 2023年9月～2024年3月

三陸国際芸術祭2023 移ル

青森県八戸市から岩手県陸前高田市まで全長600km以上を舞台とした国際芸術祭。今年は「移ル」をテーマに、主要イベント「三陸のむら未来芸能祭・のむら祭生(さいせい)ミーティング」(9月23日、24日)、「三陸芸能大発見サミット」(10月7日、8日)、「三陸芸能祭LINK」を開催。人々を介して伝わり、留まり、育まれてきた伝統芸能の、時代の積み重ねに目を向ける。

☎岩手県野田村、大船渡市ほか

📍三陸国際芸術推進委員会

info@sanfes.com

●仙台市 9月29日～10月1日

仙台クラシックフェスティバル 2023

今年で17回目を迎え、「せんくら」の愛称で親しまれる音楽フェスティバル。今回初出演となる鷺尾麻衣&又吉秀樹がさまざまなジャンルの名曲を歌い上げる「名曲アラカルト」などクラシック音楽の初心者でも気軽に楽しめる公演や、関連企画として市内のさまざまな会場で行われる「街なかコンサート」、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅を会場に行う「地下鉄駅コンサート」など、3日間で大小さまざまな68公演を開催する。

☎日立システムズホール仙台、太白区文化センター

📍仙台市市民文化事業団

Tel. 022-727-1872



昨年度の「地下鉄駅コンサート」の様子

●千葉県内房総5市

9月30日～2024年5月5日(イベント・パフォーマンス期間)/2024年3月23日～5月26日(アート作品展示期間)

百年後芸術祭-内房総アートフェス-

内房総5市を舞台に、千葉県誕生150周年事業の一環として、「広域連携」「官民協同」による初の試みとして、アート、クリエイティブ、テクノロジーの力を融合した芸術祭を開催する。総合プロデューサーを音楽家の小林武史、アートディレクターを北川フラムが務める。

☎内房総5市(市原市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、富津市)の各所

📍内房総アートフェス実行委員

会事務局 Tel. 0438-38-6563

●さいたま市

10月7日～12月10日

さいたま国際芸術祭2023 ➡

さいたま市を舞台に3年に一度開催される芸術祭。今回のテーマは「わたしたち」。さまざまな展示やイベントが市内各所で展開され、さいたまの街に膨大な“営みの集合体”が発生する。現代アートチーム目[mé]がディレクションするメイン会場では、国内外から多様なアーティストが参加し、なかには日によって変化する作品も展開される。

☎メイン会場：旧市民会館おのみやほかさいたま市内各所

📍さいたま国際芸術祭実行委員会

Tel. 048-767-5411

●埼玉県所沢市

9月23日、24日

空飛ぶ音楽祭2023

音楽のあるまちづくりを推進する所沢で開催する音楽フェスティバル。所沢航空記念公園の緑豊かなロケーションをバックに、梅津和時や木村充揮、古市コータローといったレジェンドから地元で活動するアマチュアまで多彩なミュージシャンが出演。のんびりとリラックスして音楽を楽しめる。キッチンカーやワークショップなど、音楽ステージ以外の楽しいコンテンツも見どころ。

☎所沢航空記念公園、所沢市民文化センター・ミュージズ

📍空飛ぶ音楽祭実行委員会事務局 Tel. 04-2998-9211

●東京都豊島区

9月1日～10月29日

東京芸術祭 2023

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指し2016年に始まった都市型の総合芸術祭。8回目の今回は「世界を反転させて陽気になる方法」を

テーマに、芸術祭総合ディレクター・宮城聰演出のSPAC『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』野外公演、コロナ禍の延期を経て22年ぶりの来日公演となるフランスの太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』、木ノ下歌舞伎『勸進帳』など多彩な全19プログラムが池袋周辺で上演される。

☎東京芸術劇場、ロサ会館、メトロポリタンプラザビル自由通路ほか

📍東京芸術祭実行委員会事務局 Tel. 050-1746-0996

●神奈川県逗子市

10月7日～29日

逗子アートフェスティバル2023

市民中心の企画・運営で毎年開催しているアートフェスティバル。11回目を迎える今年は、3年に一度規模を拡大して開催する“トリエンナーレ年”として、逗子を拠点とする野外映画館プロジェクトCINEMA CARAVANによる上映・展示や、ミラーボールアート集団MIRRORBOWLERなどの多彩なプログラムを市内各所で予定。また、10月28日、29日には、逗子に縁のあるさまざまなジャンルの音楽が集う「池子の森の音楽祭」を開催する。

☎逗子市内各所

📍逗子アートフェスティバル実行委員会 Tel. 046-873-1111

●富山県南砺市

8月25日～9月10日

SCOTサマー・シーズン2023

1982年に日本初となる世界演劇祭「利賀フェスティバル」を開催して以来、世界から演劇人が集まって毎年開催されている演劇祭。鈴木忠志率いるSCOTは、華麗な花火と雄大な自然とともに上演される花火劇『世界の果てからこんにちはI』など3作を

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

上演。次代の演出家が競演する現代舞台芸術の魅力発信事業にはジャカルタ演劇協会会長でもあるバンバン・プリハディが新作で参加。ほかにも国際演劇評論家協会によるシンポジウムなど、多彩なプログラムを開催する。

📍 利賀芸術公園
📍 利賀文化会議
Tel. 0763-68-2356

● 石川県珠洲市
9月23日～11月12日

奥能登国際芸術祭2023

3年に一度、能登半島の先端に位置する珠洲市で開催される芸術祭。5月に発生した地震の影響が心配されたが、日程を約3週間延期して開催する。三方を海に囲まれた“さいはて”の地に、国内外のアーティスト59組が集結し、珠洲に根差した作品を表現。ほかにも田中泫の公演や朗読劇、ワークショップ等さまざまなイベントを開催予定。今回は民具収蔵庫をリニューアルし、スズ・シアター・ミュージアムの分館として公開する。

📍 珠洲市全域
📍 奥能登国際芸術祭実行委員会事務局 Tel. 0768-82-7720

● 京都市 9月30日～10月22日
KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2023

2010年より開催している京都発の舞台芸術祭。国内外の先鋭的なアーティストを迎え、演劇やダンス、音楽、美術などのジャンルを横断した、いま注目すべき舞台作品を紹介。今年は「まぜまぜ」をキーワードに、言語、アイデンティティ、文化の混ざり合いに目を向けた世界各地の「EXPERIMENT＝実験」的な作品を上演する。

📍 ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTO、京

都市京セラ美術館 ほか
📍 京都国際舞台芸術祭実行委員会 Tel. 075-213-5839

● 兵庫県伊丹市
9月8日～17日

鳴く虫と郷町

江戸時代に庶民の間で広く親しまれた、鳴く虫の音色を楽しむ「虫聴き」を現代風にアレンジし、街中で虫の音と秋を楽しむイベント。お店や公共施設、広場や街路樹で鳴く虫が展示されるほか、旧岡田家住宅・酒蔵でのダンスワークショップ「鳴く虫とダンス!？」(講師：セレノグラフィカ、升田学)や、市内各所での音楽ライブなど、関連イベントも多数開催される。

📍 市立伊丹ミュージアム(旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅)、周辺商店街、三軒寺前広場ほか市内各所
📍 市立伊丹ミュージアム
Tel. 072-772-5959

● 兵庫県豊岡市、養父市、香美町
9月14日～24日

豊岡演劇祭2023

豊岡市に拠点を移した青年団の平田オリザがフェスティバルディレクターを務め、今年で4年目を迎える演劇祭。豊岡市の特徴的な7つのエリアと隣接する養父市、香美町を加えた9つのエリアで開催される。劇場だけでなく、城崎の温泉街や竹野の海岸、キャンプサイト、神社の境内に設けられた木造の農村舞台など、さまざまなランドスケープを舞台に、国内外から招聘された話題の作品や公募で選ばれたフリンジなど、90以上の団体が上演する。

📍 豊岡市民会館、豊岡市民プラザ、城崎国際アートセンター、江原河畔劇場、やぶ市民交流広場ほか
📍 豊岡演劇祭実行委員会(事務局：豊岡市観光政策課)
Tel. 0796-21-9016

● 奈良県吉野町、下市町、下北山村 9月16日～11月12日
MIND TRAIL 奥大和 心のなかの美術館2023

奈良県南部・東部に位置する奥大和を舞台に、長時間かけて歩き、雄大な自然を作品を通して体験する芸術祭。2020年から始まり、4回目の開催となる今回は「Competency」をテーマに掲げ、プロデューサーの齋藤精一を中心に、エリアディレクター3組(吉野町：矢津吉隆/下市町：SKWAT/下北山村：浅見和彦・ゴッドスコピオン・吉田山)が各地域をディレクションする。

📍 奈良県吉野町、下市町、下北山村
📍 奥大和地域誘客促進事業実行委員会事務局(奈良県奥大和地域活力推進課内)
Tel. 0744-48-3016

● 山口県宇部市

9月24日～10月22日

第30回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)応募作品展

アートによるまちづくりの先駆けとして1961年に宇部市で始まった「まちを彫刻で飾る運動」を契機に開催されてきた伝統の野外彫刻国際コンクール。1次審査に応募された模型を展示する応募作品展では、例年約300点が展示される。2次審査を通過した15点の作品は、2024年秋に開催される本展で実物を展示。会期後は市内の公共空間に大賞作品等が恒久設置される予定。

📍 ときわ湖水ホール
📍 UBEビエンナーレ事務局
Tel. 0836-34-8562



第29回UBEビエンナーレ応募作品展会場風景(2021年)

● 高知県高知市
9月16日、17日

高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2023

“音楽の力で街を元気に”がコンセプトのプロ・アマ問わず出演可能な野外音楽祭。商店街や高知城丸ノ内緑地に1日限定のステージが現れ、ロックやジャズ、ポップスなどさまざまなジャンルの音楽が一日中街に溢れる。今年には20回目の開催を記念し、高知県高等学校軽音楽演奏会(軽音楽祭)を盛り上げてきた高校生バンドの演奏を中心とする「Next Generation's Day」も開催。

📍 高知市中央公園ほか
📍 高知街ラ・ラ・ラ音楽祭実行委員会事務局
Tel. 088-883-5071

● 大分県別府市
9月23日～25日

Art Fair Beppu 2023

国内外から多くの観光客が訪れる温泉地・大分県別府市。「別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』」などの地域特性を活かしたアートプロジェクト等の開催を通じ、多様なアーティストが生活や活動の拠点として集まりつつある別府市を舞台に、現代アートから工芸までさまざまなアートの魅力を発信するアートフェア。約50組の出展者が集い、訪れる人々がアーティストと直接出会い、交流し、活動を支援する場となることを目指す。

📍 別府国際観光港 旧フェリーさんふらわあ乗り場 ほか
📍 混浴温泉世界実行委員会事務局(NPO法人BEPPU PROJECT内) Tel. 0977-22-3560

継続することで高まる学校向けアウトリーチの評価

「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果に関する調査研究」の成果から

学校向けアウトリーチの実態

大澤寅雄
(文化commons研究所)

●令和4年度「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果に関する調査研究」報告書(令和5年3月)

<https://www.jafra.or.jp/library/report/2022/index.html>

●調査概要

[アンケート調査実施期間] 令和4年9月9日～12月2日(前回調査:平成20年12月15日～21年12月18日)

[回収状況] 児童・生徒対象調査:1,590件(前回調査:2,555件) / 教員対象調査:157件(前回調査:229件)

*1 「アウトリーチ活動のすすめ」地域文化施設における芸術普及活動に関する調査研究(平成13年3月)

<https://www.jafra.or.jp/library/report/12/index.html>

[文化・芸術による地域政策に関する調査研究]報告書 新「アウトリーチのすすめ」～文化・芸術が地域に活力をもたらすために～(平成22年3月)

<https://www.jafra.or.jp/library/report/20-21/index.html>

*2 前回調査では、地域文化施設がアウトリーチを初めてコーディネートした小・中学校で実施したため、調査対象の児童・生徒や教員にとってアウトリーチは初めての経験だった。一方、今回調査は、調査協力館が長年にわたってアウトリーチを継続しているため、回答した児童・生徒のうち、過去にアウトリーチを経験のある割合は51.4%、アウトリーチの担当経験のある教員は57.3%となっている。

●「長期的、継続的な」アウトリーチやワークショップの成果や効果とは？

地域創造は平成10年に「公共ホール音楽活性化事業」を開始して以来、演劇、現代ダンス、邦楽とジャンルを広げながら、アウトリーチやワークショップなどの事業に取り組んできた。この25年間でこうした取り組みは全国各地に広がり、また多様な形で展開されるようになった。

過去に地域創造では、アウトリーチに関する調査研究を2度行っている^(*1)。令和4年度の調査研究では、平成20・21年度に行った前回のアンケート調査結果と比較することで^(*2)、アウトリーチやワークショップの「長期的、継続的な」成果や効果の検証と考察を行った。調査研究の実施に際しては、こうした活動の学術研究や現場の実践経験を有する有識者から成る調査研究委員会を設置した。また、調査対象として、地域創造の事業にも参加経験があり、長期的、継続的に地域の小・中学校へのアウトリーチに取り組んできた調査協力館6館にご協力いただいた。この調査研究報告書からアンケート調査結果の要点を紹介する。

なお、前回調査では、調査を行うアウトリーチの芸術分野で、音楽、ダンス、演劇のバランスが均等になるようにアンケートの実施校を選定したが、今回の調査期間が新型コロナ禍の影響で、身体的距離を確保しにくいダンスや演劇は実施が困難だったため、児童・生徒の参加したアウトリーチの芸術分野は音楽59.5%、ダンス24.5%、演劇16.0%と、音楽の割合が高くなっている(P11、以下カッコ内のページ番号は報告書でのグラフ掲載ページを示す)。

●子どもたちの高い満足度、効果が大きい「感受性」「表現力」「想像力」

ここからは「子ども」「教員や学校」「文化施設」のそれぞれにとって長期的・継続的なアウトリーチの主要な成果や効果を紹介したい。

まずは子どもにとっての成果や効果を見てみよう。児童・生徒へのアンケートの回答は、アウトリーチを実施する前から「楽しみにしてい

た」80.4%、参加後に「満足した」91.6%(P16)、「これからも受けてみたい」84.4%となっている(P17)。事前の期待、事後の満足度、継続の要望ともに肯定的な回答が多く、それらの割合も前回調査と大きな変化は見られない。

教員へのアンケートでは、子どもたちにとってどのような能力や心を育むことに効果があるのかを聞いたところ、「素直に感動する心(感受性)」79.6%、「自分の考えや気持ちを表現する力(表現力)」62.4%、「目に見えない事象をイメージする力(想像力)」61.1%となっている(P19)。ジャンル別で見ると、「音楽」で最も高いのは「素直に感動する心(感受性)」であるのに対し、「ダンス」と「演劇」では「自分の考えや気持ちを表現する力(表現力)」が最も高い。

●実施前の信頼、実施後の効果、継続の意向…継続によって高まる教員の評価

次に、教員や学校にとっての長期的・継続的なアウトリーチの成果や効果を見てみよう。特徴的だったのは、アウトリーチを授業に取り入れたきっかけである。前回調査で最も多い回答は「都道府県や市町村などの教育委員会や関係部局から勧められて」だったのが、今回調査では「以前に実施した経験のある学校の教員から、効果や評判を聞いて」(32.0%)に入れ替わった(P22)。長期的にアウトリーチを継続してきたことで、教員から教員へと取り組みの評判が伝播していると考えられる。

また、「このプログラムを実施する前に、その効果について信頼していましたか」(事前の信頼)、「期待した効果があったと思われませんか」(事後の効果)、「今後も継続してみたいと思えますか」(継続の意向)という3つの質問を前回調査と今回調査を比べると、事前の信頼で「とても信頼していた」が30.1%→62.3%、事後の効果で「とても効果があった」が57.4%→70.5%、継続の要望で「ぜひ継続したい」が41.9%→72.0%と、いずれも積極的な肯定意見の割合が大幅に増加している(右図、P24)。

前述した児童・生徒の「事前の期待、事後の満足度、継続の要望」は前回調査と今回調査

で大きな変化はなかったが、教員にとっては、全員が初めてのアウトリーチの担当経験だった前回の調査と、6割がすでにアウトリーチの経験のある調査対象である今回の調査で、事前の信頼、事後の効果、継続の意向の回答が大きく伸びたことが把握できた。

●心豊かに生活する市民の増加、多様な価値観を受け容れる地域づくりへの期待

では、長期的・継続的なアウトリーチはどのような成果や効果をもたらすのだろうか。教員へのアンケート調査によると、アウトリーチによる授業の機会を中長期で継続した場合に期待できる地域社会への効果を「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価で尋ねたところ、「文化・芸術活動を通じて心豊かに生活する市民の増加が期待できる」4.60、「アーティストとの出会いを通じて多様な価値観を受け容れる地域づくりが期待できる」4.54と高い評価となっている(P29)。文化施設が長期的・継続的に学校へのアウトリー

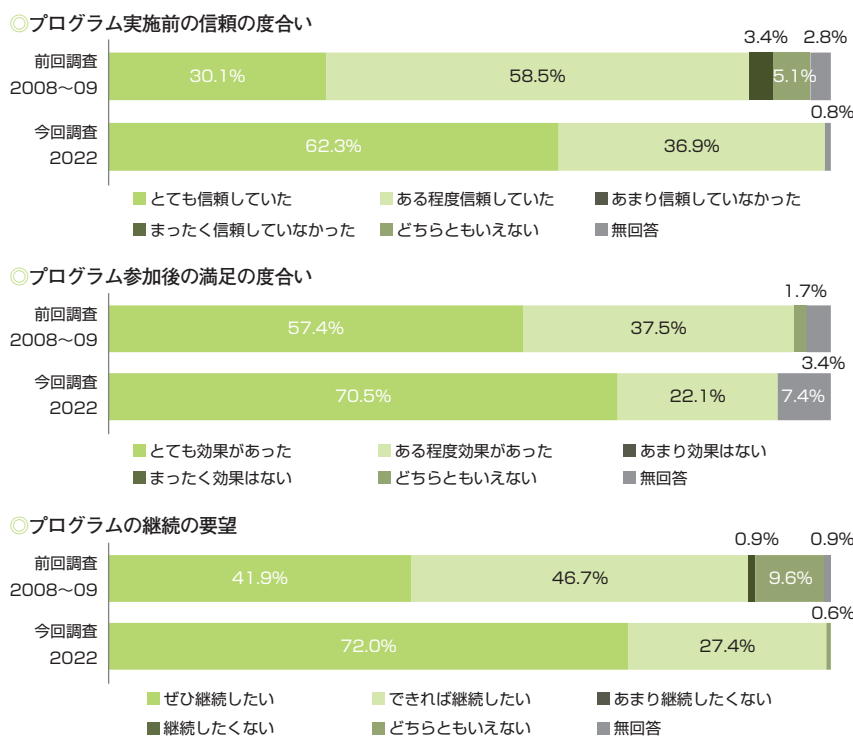
チに取り組むことで、市民の心豊かな生活や多様な価値観を受け容れる地域づくりという期待が、文化施設に向けられているのではないだろうか。

※

報告書では、アンケート調査の主要な結果に加えて、調査協力館6館のアウトリーチやワークショップ等の事業担当の職員、アウトリーチを実施した学校教員、各館が取り組む特徴的なアウトリーチやワークショップの参加者や関係者を対象に行ったインタビュー調査も交えながら報告している。また、調査協力館6館が実施している特徴的なアウトリーチやワークショップを紹介するとともに、その成果、効果を分析、整理している。

これまでアウトリーチやワークショップに取り組んできた、あるいは、これから取り組もうとする文化行政、文化施設の関係者にはぜひ報告書に目を通していただき、ご自身の地域や施設でのこれまでの振り返りと、今後の検討に役立てていただければ幸いである。

図 教員対象アンケート調査から



◎調査研究委員会

- 上野正道(上智大学 総合人間科学部 教育学科 教授)
 - 神前沙織(NPO法人ジャパン・コンテンツポラリダンス・ネットワーク チーフ・コーディネーター)
 - 田中真実(認定NPO法人STスポット横浜 事務局長/横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局長)
 - 田中玲子(認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク エグゼクティブプロデューサー/理事)
 - 千田祥子(公益財団法人音楽の力による復興センター・東北 シニア・コーディネーター)
 - 源由理子(明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 教授/明治大学 副学長(社会連携担当)/明治大学社会連携機構 構長)
- ※五十音順、敬称略(所属・肩書きは委員就任当時のもの)

◎調査協力館

- 北上市文化交流センター さくらホール
- いわき芸術文化交流館 アリオス
- りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館
- 上田市交流文化芸術センター サントミュージーゼ
- 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
- 北九州芸術劇場

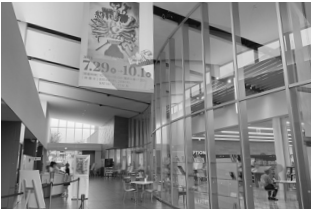
▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

山形県東根市

まなびあテラス

「黒須和清 切り起こしペーパークラフト展」 「黒木あるじとひがしね百物語」



上：まなびあテラス
下：黒木あるじとひがしね百物語第八夜「おとむらいのカタチ」(8月12日)

● 東根市公益文化施設まなびあテラス
[所在地] 〒999-3730 山形県東根市中央南1-7-3
[開館] 2016年11月3日
[所管] 市教育委員会生涯学習課
[施設概要] 東根市図書館(収蔵能力20万冊・開架10万冊、閉架10万冊、現在16万冊)、東根市美術館(市民ギャラリー：約400㎡、特別展示室：約200㎡、アトリエ)、東根市市民活動支援センター(情報ラウンジ、プリント工房、講座室)、まなびあ公園(9,703㎡)、カフェ ほか

*1 まなびあテラスのPFI活用
東根市では4例目のPFI事業。2014年に公募で選定された事業グループが特別目的会社「株式会社メディアゲートひがしね」を設立。
構成企業：鹿島建設(代表企業)、NECキャピタルソリューション、図書館流通センター、三菱電機ビルソリューションズ、山形ビルサービス
設計担当協力企業：山下設計東北支社
事業期間：2014年9月24日～36年10月31日

*2 2023年8月現在。

*3 まなびあテラスサポーターズクラブ「一般」「ティーンズ(中学生)」「ジュニア(小学生)」で毎年募集。現在、一般約70人、ティーンズ約30人。LINEで毎月の仕事を発信し、興味のあるものに参加登録するアラカルト方式。

多世代が利用する図書館を核にした交流型の複合文化施設を整備する動きが広がっている。そのひとつが東根市公益文化施設「まなびあテラス」だ。山形新幹線さくらんぼ東根駅から徒歩10分。市中心部に位置し、県内初の貸出・返却の自動化を実現した図書館や年4回の企画展を催す美術館、登録活動団体の紹介や講座などを実施する市民活動支援センターから成り、人口約4万8,000人ながら今年3月には総来館者数が170万人を突破した。

20年間の施設運営も含めたPFIにより整備され^(※1)、特別目的会社の構成企業である(株)図書館流通センター(TRC)が3つの施設の事業と運営を担当。全国582館^(※2)の公立図書館の管理運営を受託するTRCにとっても、美術館や市民活動支援も含めた包括運営は初のケースだ。類似施設を構想する自治体の議員や職員の視察が絶えない同施設取材した。

「これまで美術館がなく、図書館も新幹線駅舎併設で小規模でしたので、まなびあテラスには大きな期待がありました。私たちもより多くの市民に来ていただこうと、開館前からプレ事業を展開し、市や市民団体から提案されたさまざまな連携企画を積極的に実現しました。青年会議所の提案で、男女100人が参加する婚活パーティを図書館で開いたこともあります。その結果、『ここには何か面白いことがある』という認識が定着してきたと感じています」。そう語るのは、他県の美術館等での経験を経て施設の全体統括と美術館チーフを兼務する松葉里江子さんだ(山形県出身)。

指定管理者制度では5年契約というのが一般的だが、まなびあテラスの契約期間は20年。TRCでは5年4期に分け、1期目は多彩な活動による市民参加の推進、2期目は市民活動を進め新たな活動への意識の醸成、3期目は市民リーダーの育成、そして4期目は文化や地域活動の担い手が自立し、ネットワーク化が進展することを目標として掲げている。

取材に訪れたとき、美術館では「黒須和清 切り起こしペーパークラフト展」(7月29日～10

月1日)が開催されていた。市民にも身近な一枚の紙を素材に、切り込みを入れ、その部分を起こして折るなどし、立体的な紙の彫刻をつくるペーパークラフト作家・黒須和清の作品約150点を展示。毎年、美術館では、こうした作家展とともに、その作家を招聘して市民とワークショップなどで協働制作を行うアートプロジェクトを展開している。今回は、黒須が市内の保育施設の保育士や職員を対象にワークショップを行い、そのノウハウを園に持ち帰って園児たちとペーパークラフトを制作。12月にはまなびあテラスで成果展示する予定だ。

講座室では、市民活動支援センター主催の「黒木あるじとひがしね百物語 第八夜『おとむらいのカタチ』」が開催されていた。地域の歴史や伝承を発掘・再評価することを目的として2019年にスタートした企画で、市民が楽しく参加できるような「怪談」という切り口で山形在住の人気怪談作家・黒木あるじをキャスティング。図書館入口に「ふしぎポスト」を設置し、市民の体験談を集めたり、地元につながる怪談や歴史の紹介、怪談話の朗読やトークを行っている。最終的には書籍化やギャラリー展示もできる郷土コンテンツづくりを目指しているとか。

運営体制は館長を含め20人。統括マネジメント部門の下に図書館・美術館・市民活動支援センターの3部門を置き、全員がマルチタスクで業務を担当。横断的なプロジェクトチームを組織して事業にあたることも多いという。美術館運営については外部専門家の芸術監督と、巡回展などを企画する企業のプロデューサーが企画づくりや学芸員の人材育成に協力。また、開館前からサポーターズクラブ^(※3)を立ち上げるなど、市民に気軽に運営に参加してもらう仕組みもつくってきた。現在の森谷功2代目館長はサポーターズクラブ初期メンバーの東根市民だ。「『きれいな施設ですね』との言葉をいただくことが多いですが、市民の皆さんに使ってこなしてもらえる施設をつくり、新しいことをこれからもどんどんやっていきたい」と笑う。交流型複合文化施設はいまだ進化中で、その可能性を感じさせる取材だった。(田中健夫)